

ほうれんそう

1 作型

月	2			3			4			5			6			7		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作	露地マルチ栽培																	
型	ちぢみほうれんそう																	

月	8			9			10			11			12			1		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作	露地マルチ栽培																	
型	ちぢみほうれんそう																	
	秋冬まきトンネル栽培																	
	秋冬まき無加温ハウス栽培																	

播種

収穫

 トンネル

アピールポイント

- ・出荷時期：4月下旬～6月中旬、9月中旬～2月下旬。
- ・本標高差を利用したリレー栽培により、盛夏期を除いたほぼ周年で出荷が可能です。
- ・低温に当たったちぢみほうれんそうは柔らかく、また糖度が高くなるため良食味です。



2 各作型のポイント

(1) 露地マルチ栽培

長日条件で抽台しやすいため、春まきには晩抽性の品種を使用します。

春まきの生育前半は低温期に当たるため、ベタがけなど保温資材を活用して初期生育を促します。日照不足(梅雨時、過度な遮光等による)・高温・多肥等により、徒長しやすい。

夏まきでは、発芽率が低下しやすいため、高温時の播種や播種後の乾燥に注意します。また、立枯病や萎凋病などの土壌病害が発生しやすいため、防除を徹底します。

冬場よりも疎植とし、徒長防止を図ります。間引きは、根傷みを防ぐため本葉3枚期頃までに行います。

(2) 秋冬まきトンネル栽培、ハウス栽培

収穫適期を逃さないよう、早めの収穫を心がけます。

ネーキッド種子、プライミング処理種子の利用は低温でも発芽が早く、しかも一斉発芽するので有効です。

生育適温は15～20℃のため、トンネル・ハウス内の高温に留意し、換気などをこまめに行います。

(3) ちぢみほうれんそう

生育後半の肥切れによる葉色の低下を防ぐため、緩効性肥料を用います。

(4) 各作型共通

酸性土壌では生育が劣るため、石灰質資材による酸度矯正を行います。

計画的に播種を行い、労力の分散と長期出荷を行います。

ほうれんそうは直根性で根が深く伸びるため、耕土が深く、膨軟な土壌を好みます。そのため、畑の準備の際はよく深耕することが大切です。また、ほかの軟弱野菜と比較して、土壌水分に敏感に反応するため、圃場の水分管理がポイントになります。具体的には排水性のよい圃場では鎮圧で保水力を高めてやり、地下水位の高い圃場では心土破碎や高畝などの排水対策が必要です。

播種直後の降雨は、土壌表面に硬化層を作り、極端に発不良を起こすため留意します。

発芽から本葉3～4枚期頃(播種後15日前後)までは、立枯病が発生しやすいので、かん水は控えます。

収穫後に葉や茎の傷み(「とろけ」症状)が発生しやすくなるため、徒長や収穫時の傷、土壌水分の過多等に注意します。